

第6回あきる野市絵画展 入賞・入選作品展

会期：平成30年3月1日（木）～ 3月5日（月）

午前10時～午後5時

（1日は午後1時から、5日は午後3時まで）

会場：あきる野ルピア展示室（4階）



第6回あきる野市絵画展 最優秀賞 「青空にのらぼう」

主催 第6回あきる野市絵画展実行委員会・あきる野市教育委員会

第6回あきる野市絵画展

第6回あきる野市絵画展は、あきる野市の生涯学習推進をめざし、文化的で魅力あふれるまちづくりと地域の芸術・文化の振興を目的として、市民で組織した第6回あきる野市絵画展実行委員会とあきる野市教育委員会との協働により、公募展として実施いたしました。公募の結果、あきる野市内外の皆様より90点の作品をご応募いただきました。

応募作品の審査にあたりましては、埼玉大学教授の吉岡正人氏及び帝京大学教授の岡部昌幸氏のお力添えを賜り、最優秀作品1点、優秀作品2点、秀作3点、佳作6点及び入選作品38点をお選びいただきました。厚く御礼申し上げます。

あきる野市絵画展は、秋川流域の風景・風俗・行事・史跡・静物・人物などをテーマに制作した洋画（油彩・水彩・アクリル・パステル画）作品を広く市内外から公募し、優秀作品を称揚するとともに、入賞・入選作品を展示・公開するものです。

本絵画展を通して、多くの方々が秋川流域の自然が育む美しさや地域の優しさ、郷土愛を感じていただけることと存じます。

皆様方から寄せられたご意見やご要望を踏まえ、次回のあきる野市絵画展の開催に向けて努力して参りますので、今後ともご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

第6回あきる野市絵画展実行委員会・あきる野市教育委員会

- ▽公募期間 平成30年2月9日（金）～11日（日）
- ▽審査日 平成30年2月19日（月）
- ▽受付・審査 あきる野市中央公民館（別館1階第2工作室・第5研修室）
- ▽応募総数 90点（油彩49点、水彩32点、アクリル5点、パステル4点）
- ▽応募者数 68人（市内35人、市外33人）
- ▽審査結果
 - ☆最優秀賞 1点（油彩1点）
 - ☆優秀賞 2点（油彩1点、水彩1点）
 - ☆秀作 3点（油彩2点、水彩1点）
 - ☆佳作 6点（油彩2点、水彩2点、アクリル1点、
オイルパステル1点）
 - ☆入選 38点（油彩21点、水彩13点、パステル3点、
アクリル1点）
- 入賞・入選 合計 50点 50人（市内26人、市外24人）
（油彩27点、水彩17点、パステル4点、アクリル2点）
- ▽入賞・入選作品展 平成30年3月1日（木）～3月5日（月）
あきる野ルピア4階展示室
- ▽表彰式 平成30年3月3日（土）午前10時
あきる野ルピア3階産業情報研修室

●…………… 第6回あきる野市絵画展審査員総評 ……………●

審査員 吉岡正人（埼玉大学教授・二紀会理事）

「今年は、少し出品点数が多くなりました。それから大きな作品も多いです。」最初にそう報告があり、「良かったじゃないですか」と答えた。が、審査員にとって、それは良いことではなかった。何故なら、展示スペースから考えて、どんなに多くても50点以下しか展示できないからだ。つまり、かなりの激戦になった。複数点出品の方の作品も選外となった。申し訳ないと思う。そんな中で、藤原純子さんの作品「青空にのらぼう」が最優秀となった。非常にレベルの高い作品で、技術力の高さに驚いた。全国レベルの会に出品しても充分戦える作品だと思う。

今回の審査で感じたのは、「レベルが上がったなあ」ということ。それは単に全体の力が上がっただけでなく、悪い作品がなくなったということだ。最初にざっと見たときに、「これはちょっと無理だなあ」と思う作品が、5～6点はあるものだが、全く目につかなかった。この土地の近隣の風景を描いたものも多く、絵を描くことで自分の生活する地域の景色の美しさに気づき、それを多くの方々と共有したいという思いも感じられた。地域の主催する展覧会として大変好ましいことと思われた。

審査員 岡部昌幸（帝京大学教授・群馬県立近代美術館館長）

前回より、応募数は微増、出品者も増大した。応募者の制作活動が大きく変わらず継続性があることを、まず出品作の内容を見て感じたが、応募者各自が自らの進む道をためらわずに進んでいることは、安定した制作活動があるということで望ましい。そのいっぽうで、出品者があきる野市市外に拡大したとのことで、新鮮な風が入ってきたようにも思えた。

具象が多く、地域に根差した内容で、作品のテーマが近く、展覧会の内容がまとまっており、作者の目指す方向が近いのが本展の特徴であろうと思われる。その意味では、甲乙つけがたく、惜しくも落選となった作品にも、好ましい作品は多くあったことを記しておきたい。

個性や作品への思いが強く発揮されていること。技法に工夫と模索があること。作品の独自の雰囲気があること。大きな構想と情熱があることなどが、選考のうえで特に考慮した点である。制作しつつ自らが愉しみ、自身を表現するという点に加え、いかに観るひとにアピールするか、訴えかけるか、思いを伝えられるかを考えながら、さらに構想を練り、表現を磨くことに創意工夫していただければと思う。

●……………

第6回あきる野市絵画展「入賞作品」

☆最優秀賞 「青空にのらぼう」 油彩 F20 藤原純子 (青梅市)

《吉岡正人審査員講評》

中央に大きな のらぼうの葉が空に向かってシャキッと立っている。下の方には2軒の家。一軒は昭和の感じがする瓦葺き住宅。もう一軒は、白くてすっきりしたデザイナー住宅。柔らかな雲が浮かぶ、おだやかな風景だ。文明と自然との対比のようにも見えるが、この作品の魅力は妙な静けさだ。動きも音も無い空間に人の気配も無い。そして、空気もキリッとして冷たい。どこかマグリットを思わせるシュールな雰囲気もある。今後が楽しみな作家と思われる。

《岡部昌幸審査員講評》

あきる野市のある西多摩地域から埼玉飯能・小川町あたりまでの特産のアブラナ科の野菜が、のらぼう（のらぼう菜）である。江戸時代初期から栽培され、耐寒性に優れた食物で、天明、天保の大飢饉に人びとを救ったという。時は変わって現代の本作は、高く見上げた青空に、そののらぼうの茎と葉が反射光を受け、リアルな写実で描かれるが、のらぼうは巨大な大樹のような構図に配置され、まるでアングルのような古典主義の堂々とした逆三角形構図となって現代の典型的な郊外住宅の2棟の間に出現する。地域の特性に取材しつ、絵画芸術としての完成度も達成する、不思議でユニークな視点がきわめて秀逸である。

☆優秀賞 「乙津の夏」 油彩 M12 神山茂久 (あきる野市)

《吉岡正人審査員講評》

二点出品された出品者で、もう一点も大変魅力的ではあったのだが、展示スペースの関係で一点のみの入選となった。この作品は農家の畑での一コマを非常にしっかりと絵の具を付けて描いている。一見平凡にも見えるが、実に味わい深い色彩での的確な描写はデッサンの狂いもなく安心して見ていられる。何げない日常の中にモチーフを見つけ、丹念に描かれた佳作である。

《岡部昌幸審査員講評》

秋川の奥深く、山里の乙津の山が迫る自然を描いた写生は、高地の光を良くと

らえ、緑が美しい。山なみと畑で収穫を待つ野菜の葉の表裏の重なりが、緑のボリュームを競うかのような充実感を生み、夏の生命力を謳歌している。なかなか見ない題材をよく選び、作品としてまとめあげた力量は高く評価できる。

☆優秀賞 「豊穣の里山“横沢入” 水彩 P30 野澤 勝 (東大和市)

《吉岡正人審査員講評》

かなりの力量の作家と思われる。右上の杉林の暗い影の中の表現、近景の白ヌキの上に薄く色を掛けた表現、空のたっぷり水を用いた柔らかな表現。それらの効果を自在に用いて広々とした空間を描いている。

重ね塗りされた絵の具には深みも感じられ美しい表現となっている。

《岡部昌幸審査員講評》

五日市線「武蔵増戸駅」から徒歩 15 分の距離にある横沢入は、農業環境として整えられた里山保全地域として有名で、都会のすぐそばにあるまさに「豊穣の里山」といえる。農業環境として整えられたこの里山を、道が屈曲して杉林と民家で沢の空間を、道端の雑草から柵、案山子の細かな描写にいたるまで、水彩の技法を駆使し描いた本作は、まさに豊穣な里山空間を描いた意欲作である。

☆秀 作「猫のいる東秋留橋」 油彩 F20 川北 茂 (あきる野市)

《吉岡正人審査員講評》

茶色の地塗りが効果的である。そのために全体のグレーの色彩が冷たくならず、温かみを感じさせる。デッサンにも隙がなく、相当な力量の方かと思われる。ただ、橋の上と下の空の部分のつながりが少しスムーズでない点は惜しまれる。

全体として絵具の使い方が上手く、高い力量を示している。

《岡部昌幸審査員講評》

昭和 14 年に築造され、「日本近代土木遺産」に選定されている東秋留橋を、石が散乱する荒々しい秋川の河原から見上げ、雄大に描く。目の光る猫が、河原でシュールにも、ユーモラスにも見え、橋と対比され、面白い。

☆秀作「はにわ」**油彩 F20****山村昭一 (あきる野市)****《吉岡正人審査員講評》**

4体のはにわを構成的に配した作品。はにわの赤茶と背景のグリーンの対比が美しい。ややキュービックな構成の中に空間表現もなされており、厚みのあるガッチリした表現となっている。空の部分に楕目を入れるなど、絵の具の塗り方も工夫されている。

《岡部昌幸審査員講評》

古墳と象形埴輪に見られる馬と古代文化は、関東平野の山岳に近い周縁部に数多く広がる、地域の文化を代表するものである。それを、型にはまらない構図と、個性的なマチュールで表現し、異色の作品となった。

☆秀作「駅」**水彩 F15****伊能秀雄 (あきる野市)****《吉岡正人審査員講評》**

照明が灯ったばかりの夕刻の駅舎の光と夕映えの複雑な空の色の表現が美しい。線路を用いた遠近感も効果的で遮断機の描き方や文字の入ったカンバンも画面の遠近を表現する中で生きている。

目の付け所も面白く、技術的にも優れた作品である。

《岡部昌幸審査員講評》

JR五日市線の秋川駅と思われる駅のホームがのぞく夜の降車風景。単線のポイント転換の複雑な線路と標識、架線の柱で織りなされる複雑、人工的な線の構図に、鮮やかな電光が極彩色の都会の夜の景色を見せ、パノラマのような幻想世界を表現した意欲作。

☆佳作「青葉の頃」**油彩 P-10 坂本美郎 (あきる野市)****☆佳作「大島桜」****水彩 F-20 久野友子 (立川市)****☆佳作「あきる野ファンタジー」****アクリル F-20 岡田 愛 (小平市)****☆佳作「夏の収穫」****水彩 77×60 山野井恵美子(瑞穂町)**

☆ 佳作 「"カモメたちの朝(東秋留駅前)"」 アクリル+オイルパステル
F-30 木村俊次 (あきる野市)

☆ 佳作 「山田天神雨乞いの舞」 油彩 F-30 萩原茂男 (あきる野市)

第6回あきる野市絵画展「入選作品」

- ☆ 入選 「見上げるテラス (黒茶屋)」 水彩 F-30 増田美枝(立川市)
- ☆ 入選 「初秋の大悲願寺2」 水彩 20号 江本栄三(八王子市)
- ☆ 入選 「大樹躍る」 水彩 F-10 岩城美子(あきる野市)
- ☆ 入選 「網代ポート場の思い出」 アクリル 20号 中村清作(あきる野市)
- ☆ 入選 「花のある喫茶店」 水彩 85×71 野澤綾子(立川市)
- ☆ 入選 「夜明け」 水彩 F-10 宇田 博(あきる野市)
- ☆ 入選 「静かな水音」 水彩 F-10 山崎國生(青梅市)
- ☆ 入選 「幸せの瀬音橋」 パステル F-10 橋本雅子(あきる野市)
- ☆ 入選 「どんど焚く」 水彩 A-2 小林勝郎(あきる野市)
- ☆ 入選 「Let' s go park」 油彩 F-8 小黒伴子(青梅市)
- ☆ 入選 「メタセコイヤ並木」 パステル 10号 中田 修(あきる野市)
- ☆ 入選 「朝映え」 油彩 P-30 関 義夫(あきる野市)
- ☆ 入選 「光る観音堂」 油彩 M-30 羽村伊左雄(羽村市)
- ☆ 入選 「風景2」 油彩 F-8 金田修子(あきる野市)
- ☆ 入選 「島津 洋先生」 油彩 F-10 添田征季(あきる野市)
- ☆ 入選 「秋川源流弘沢の滝」 水彩 F-6 栗田義男(日の出町)
- ☆ 入選 「庭の草花」 水彩 F-6 榎本スミ子(あきる野市)
- ☆ 入選 「春を待つ雪の秋川1」 油彩 F-15 田淵隆三(あきる野市)

- | | | |
|-------------------|----------------|-------------|
| ☆ 入選「出陣」 | 水彩 F-10 | 会田洋三(あきる野市) |
| ☆ 入選「メタセコイアの並木」 | 油彩 F-30 | 小澤繁明(日の出町) |
| ☆ 入選「はるか橋」 | 水彩 F-8 | 頃末和夫(あきる野市) |
| ☆ 入選「秋川溪谷」 | 油彩 F-10 | 武田博昭(立川市) |
| ☆ 入選「ハッピーなひと時」 | 油彩 F-30 | 早川幸男(福生市) |
| ☆ 入選「萌える春(秋留台公園)」 | 油彩 P-10 | 指田 晃(羽村市) |
| ☆ 入選「柏葉アジサイ」 | パステル 74.5×56 | 猪俣幸子(瑞穂町) |
| ☆ 入選「石舟橋」 | 油彩 F-12 | 岡部 修(福生市) |
| ☆ 入選「5月の養沢」 | 油彩 F-15 | 内野 信(あきる野市) |
| ☆ 入選「いとしい野菜たち」 | 油彩 P-10 | 倉畑久美(福生市) |
| ☆ 入選「流木」 | 油彩 F-20 | 大瀬弥恵子(日の出町) |
| ☆ 入選「山里の光景(養沢川)」 | 油彩 F-15 | 高木 緑(あきる野市) |
| ☆ 入選「ソーダ水」 | 油彩 M-30 | 濱中俊男(羽村市) |
| ☆ 入選「田植え日和・横沢入」 | 油彩 P-20 | 内藤光子(あきる野市) |
| ☆ 入選「横沢入秋景」 | 油彩 F-20 | 島田雅由(あきる野市) |
| ☆ 入選「秋燃ゆる」 | 油彩 F-15 | 川原隆寛(日の出町) |
| ☆ 入選「2017年 払沢の滝」 | 水彩四つ切 | 濱中 斉(あきる野市) |
| ☆ 入選「秋川(I)」 | 油彩 F-10 | 長峰弘子(府中市) |
| ☆ 入選「黄昏の川」 | 油彩 F-12 | 能地 浩(八王子市) |
| ☆ 入選「緑蔭の小路(平井川)」 | 水彩+色鉛筆 300×200 | 大山 学(あきる野市) |
- (受付順・敬称略)

問合せ先：あきる野市中央公民館 TEL 559-1221